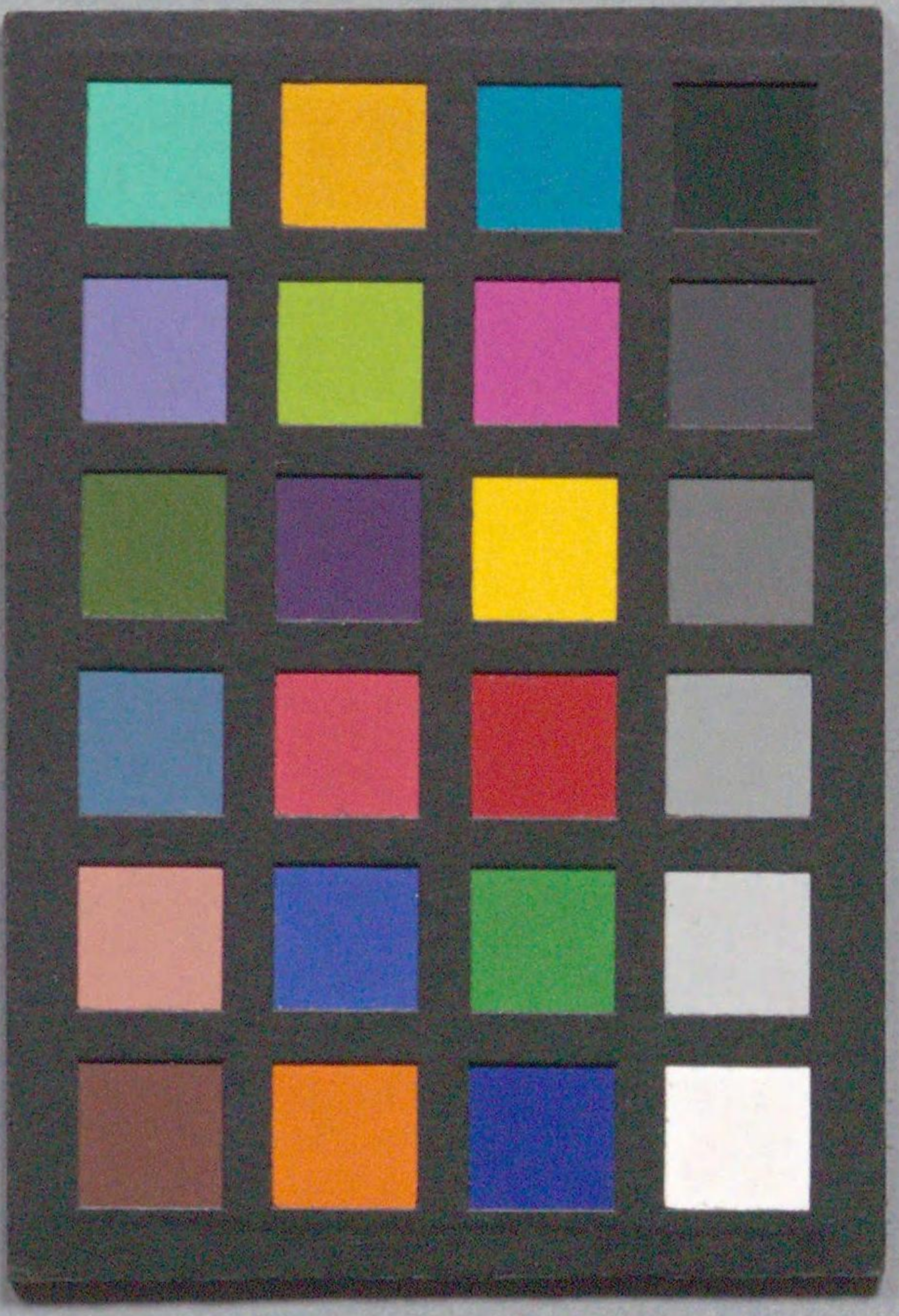
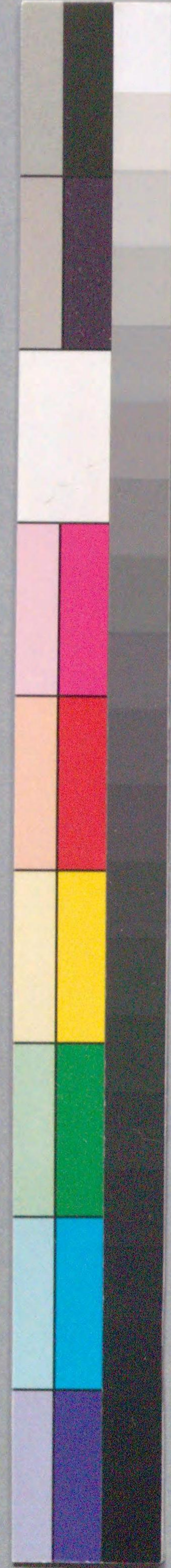




国立国会図書館 花籠 5編 208-700



ガラス使用



国立国会図書館 花筐 5編 208-700

ガラス使用



遊観 花筐第五編卷之中

東都

松亭金水編次

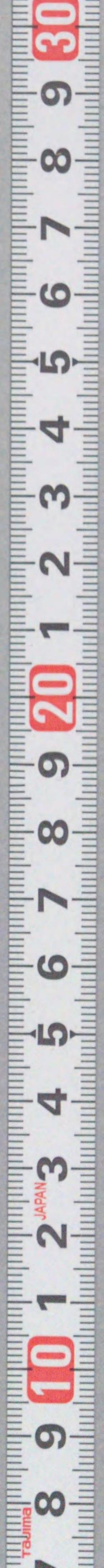
第廿四 一途小迷ふ恍惚の意

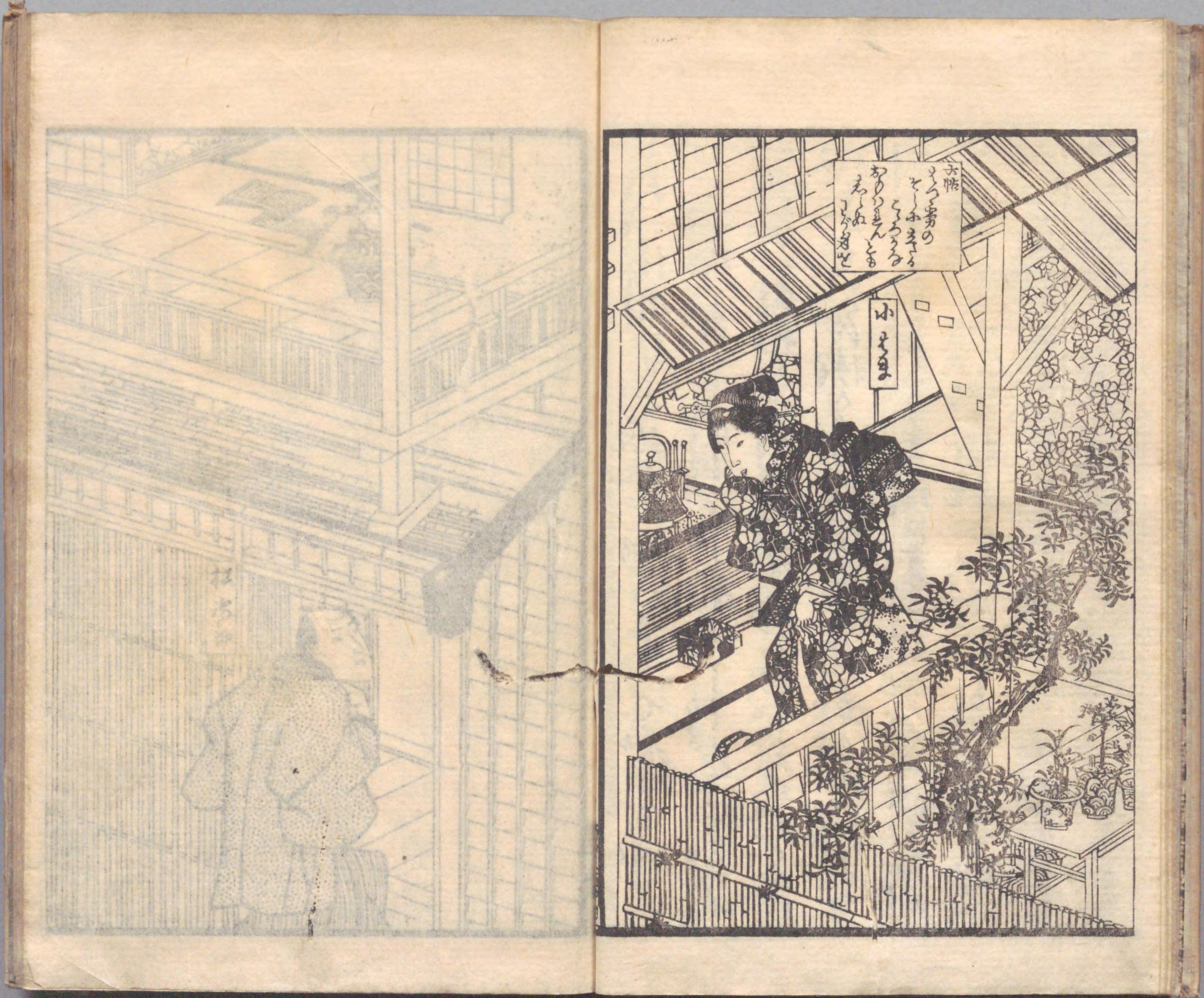
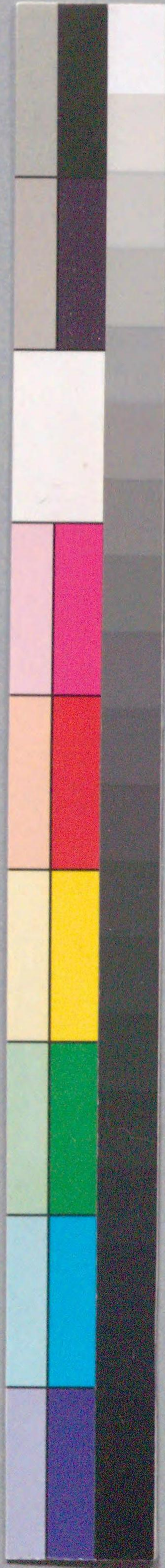
右清よのまゝ 嫉る死婦人の百世後掩とうわさく人あふ拙
るくとも。まゝ標致の醜くとも。瘡ごんのる処女と。あき新と
こゝろ麻ると。遠ハ聖賢の二語めん。あき古蹟貴く。金と云
るるべし。徳而お落ぐ一言小お寅か。面の垢で。洗ひ落せし
心地せし。まゝ。雲の云系も。死てり小お好ら。まゝ。死の對ひ

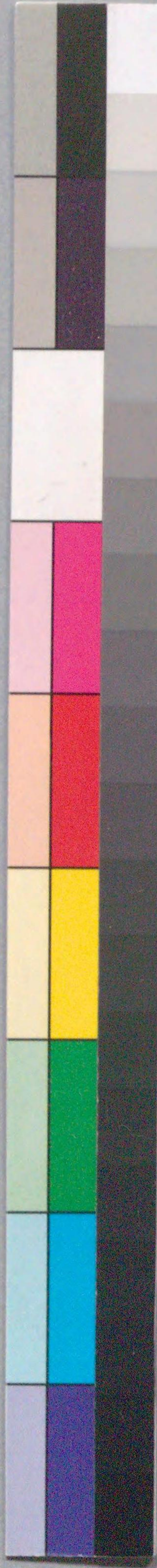
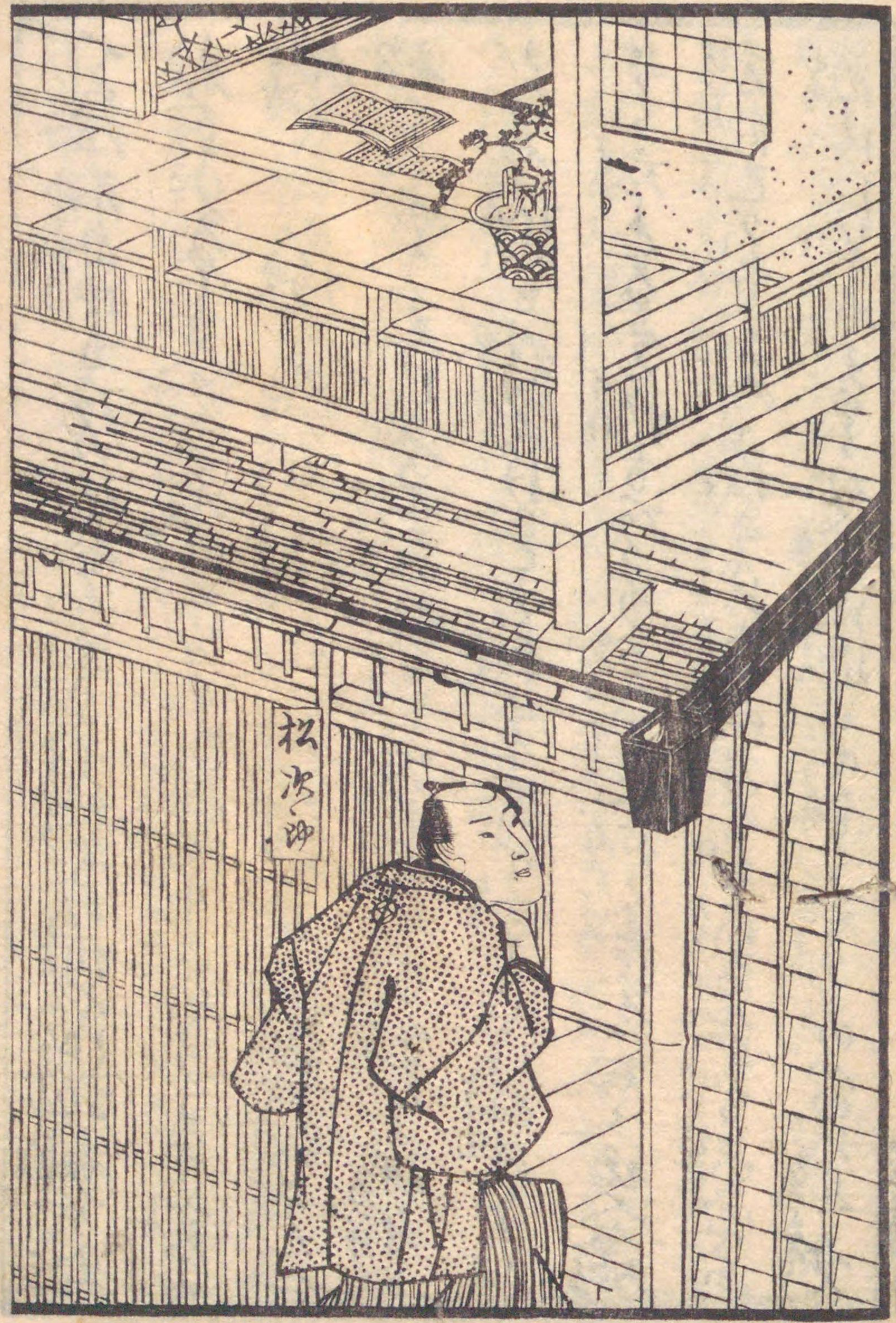


ま。さんお坊ふうち對ひ一様一人モウ叔さん。離で出
さうと云わ。うらま。三友板ト云。おま。せん。且。お
が。り。い。お。勝。を。何。でも。お。勝。成。中。さ。う。と。申。す。ん。ご。ご。い
ます。令。辨。母。が。幼。年。を。い。何。も。か。も。あ。い。く。を。今。更。玲
方。い。ご。ご。い。ま。せん。け。ん。ご。ご。い。何。年。を。若。方。の。此。執。成。心。且。助。さ。ま
のお。勝。成。の。成。う。ま。す。申。す。亦。お。勝。成。中。夜。の。ご。ご。い。ま。ん。中
さ。び。母。を。う。り。で。も。ご。ご。い。ま。せ。ん。私。も。且。助。さ。ま。が。不。快。く。い
下。さ。る。の。成。真。の。め。人。毎。日。く。自。己。の。成。る。成。り。を。お。び。を。ら。う

ま。の。一。つ。此。利。の。せ。ん。能。児。の。振。成。り。て。居。る。も。考。ぐ
ま。の。勿。体。る。の。と。ホ。ニ。後。悔。し。て。ま。す。そ。う。考。へ。若。方。の。お。勝。成。
二。個。の。身。が。あ。つ。ま。私。も。い。成。切。う。え。を。と。く。お。こ。ん。の
代。り。を。い。て。積。り。を。ご。ご。い。ま。ん。う。う。何。年。今。回。の。下。ご。ご。い
私。ひ。や。ご。ご。い。ま。す。ト。親。友。書。を。処。女。の。心。成。れ。ば。ご。ご。い
六。不。使。さ。も。一。入。信。を。叔。年。の。別。海。お。勝。も。例。く。う。は。と。別。人。
一。何。年。見。さん。と。ま。ご。ご。い。ま。ん。お。勝。成。の。中。す。も。可。成。さ。う。り。
ま。ご。叔。さん。も。の。頃。の。此。後。毒。の。う。り。の。別。人。が。居。あ。く。あ。い







と遊んで。わろくはくふ。悪事の維子妻。あつこく
在処。あつこく。痛人の。あつこく。あつこく。あつこく。
小舎。あつこく。あつこく。あつこく。あつこく。あつこく。
性。あつこく。あつこく。あつこく。あつこく。あつこく。
べきの色。あつこく。

第七八回 被あつこく別のほろこ

あつこく。あつこく。あつこく。あつこく。あつこく。
あつこく。あつこく。あつこく。あつこく。あつこく。
あつこく。あつこく。あつこく。あつこく。あつこく。
あつこく。あつこく。あつこく。あつこく。あつこく。

あつこく。あつこく。あつこく。あつこく。あつこく。
あつこく。あつこく。あつこく。あつこく。あつこく。
あつこく。あつこく。あつこく。あつこく。あつこく。
あつこく。あつこく。あつこく。あつこく。あつこく。
あつこく。あつこく。あつこく。あつこく。あつこく。



ひの小成りうう早く物さ中う小と親類うう子輪が来中一と。
ミテ名のとモウ三首中やアま後人けややアるうねがゆどり
けちちをぞも初易くあてえらると。城のの株一のやうで
まうこをさやうやあうねけさど。老も角の一先を物らね
けややアるうまま小統ちやアとの児のあふ所詮一清小
連て性との小沢小もあるま。ま。痛うう逆ひで紙すま。只の
些仕情うらうと。あか。ア。何根あう。宣らう。勿論。情も
ゆぐの此土地へも来る気はけさど。む。命が病気の宿る

小園へ。左根。在。母。や。ア。来。こ。も。後。分。も。志。ま。ね。へ。の。子。姑。さん。ま。
処へ何卒宣中う。小注致つけてお異あせへ。ま。ア。ま。ま。ま。ま。
何よりおあせう。ごい。ま。ん。あ。う。存。ま。う。り。大。分。お。早。く。海。
ま。う。あ。け。子。ま。処。ま。ま。初。の。根。も。何。根。も。物。ら。の。一。つ。つ。宣。
お。志。ま。ま。せん。が。た。く。人。志。小。再。お。出。が。あ。の。う。り。て。も。根。結。お。
見。持。る。す。の。て。ま。入。中。さ。う。あ。の。け。ま。は。ら。う。と。存。ま。す。が。
あ。う。小。漢。今。お。あ。が。安。通。り。れ。状。ご。ウ。ま。を。宣。ら。う。全。
御。あ。う。何。根。の。つ。も。と。お。當。め。中。度。布。ご。け。ま。ま。ア。の。ま。



若旦那がお出立の申すまゝのまゝ成お留やちやア流るい。ウ
 小漢おあいの物と申す。エエエエエ何根成てトトと小漢の
 圓茶もせん。願珍小きいささ。ほろりと涙成溢して。魁
 角の返禪もやと申す。や持除く松流糸小漢が款で
 眠き込とあぐくく御めん居りしが松ヨウ小漢何根と
 のぞ。非さん小漢のうりは成利く。き言て居て何と云
 るせん。ヨウ小漢何根志このぞト教回いませえ編纏の。
 禪律の神心流成掛きまゝ十二私志やア何根でも圓
 ござのますす。何根でも圓ウアをまを宜が何成まゝ
 言根小漢のぞ。マアとく受る自己も受附トやア方と
 遠つて。不自由なる身の上さ。何卒遠根もくを友
 被もくを友と。毎の付お下やアねが。さあふ斗やん
 め居移へ揚どが。今回任が流成縁念へ願やア。まゝ元
 の為の上とるさ。何根でもくをまをまうといふのま
 小漢の限で本根全といふの志やア。あまも新まゝ
 や六度いけ去地へも来る気さ。まをまをア此処で





より怨襟。さきどくくして強小止むべき洞もあるけき
 心裡よくゆくとおろふのこ珍方ある。で眼張開く動きも
 中へは新着松皮布のひび成伸れ小流ぐ肩成揺るる
 松毛ウ 掃このうたまふ下細くめく聴えぬ濕り掃る新成
 老りと松つあね物もそ振よ寒させとも軍下やア移へる。
 手振れしへ居ると所まり鉄の分らるるやうで悪い。ま
 機張成速にが真いたそ処で小流新仕中り方るるど
 おおれいそ色り一旦波比へけりてえやア左振速いのも
 来りまめくくくを同侍てるれが居るる。速い跡うう人て
 侍んで供よつとえ来るせん。左振するも誰れ出入の者
 の宅へ廻りて居てまう程成見えありて。お芳やを婆
 小も形しえ波いんせとも掛搦ひの移中りあて居て居る。
 正吏るる軍下やアねりまへてま下や軍下もみんはまこと。
 矢法林さんやゆを松まつ。そ処へ念自己が跡色を居る
 くのせも案案志ッころあ。よよく左振と極上やア。翌之の物
 左小も新しん左振させらア。まじ乾ちやア程々入るこも



208
15
700

所弘賣

書物并繪入讀本所

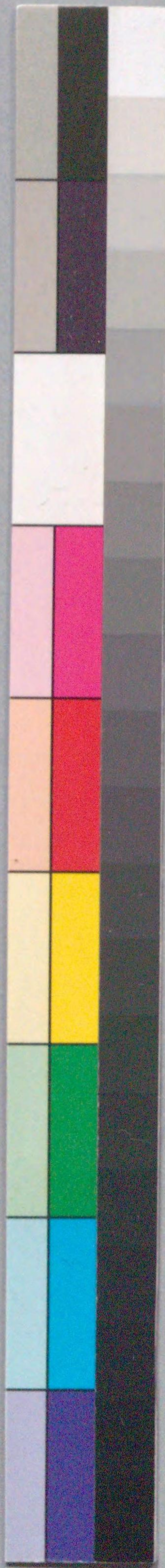
江戸京橋跡左門町東側中程
文永堂 大嶋屋傳右衛門

髪化粧とせしる 妙業 初又せしる

此のくまの髪を洗へば
あひよりもうつくさる
とうのう有 代二十六文

真の美しきものなり
為永春水精劑



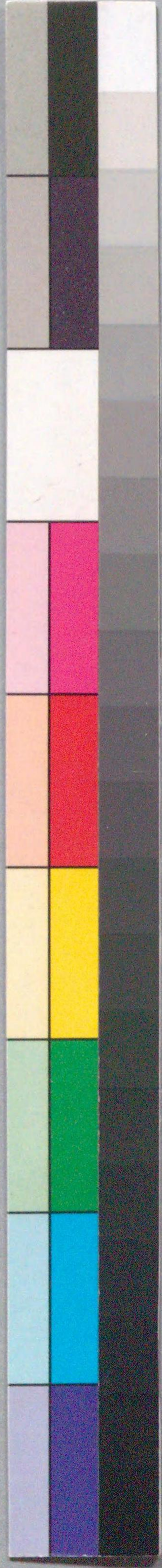


208
15
700

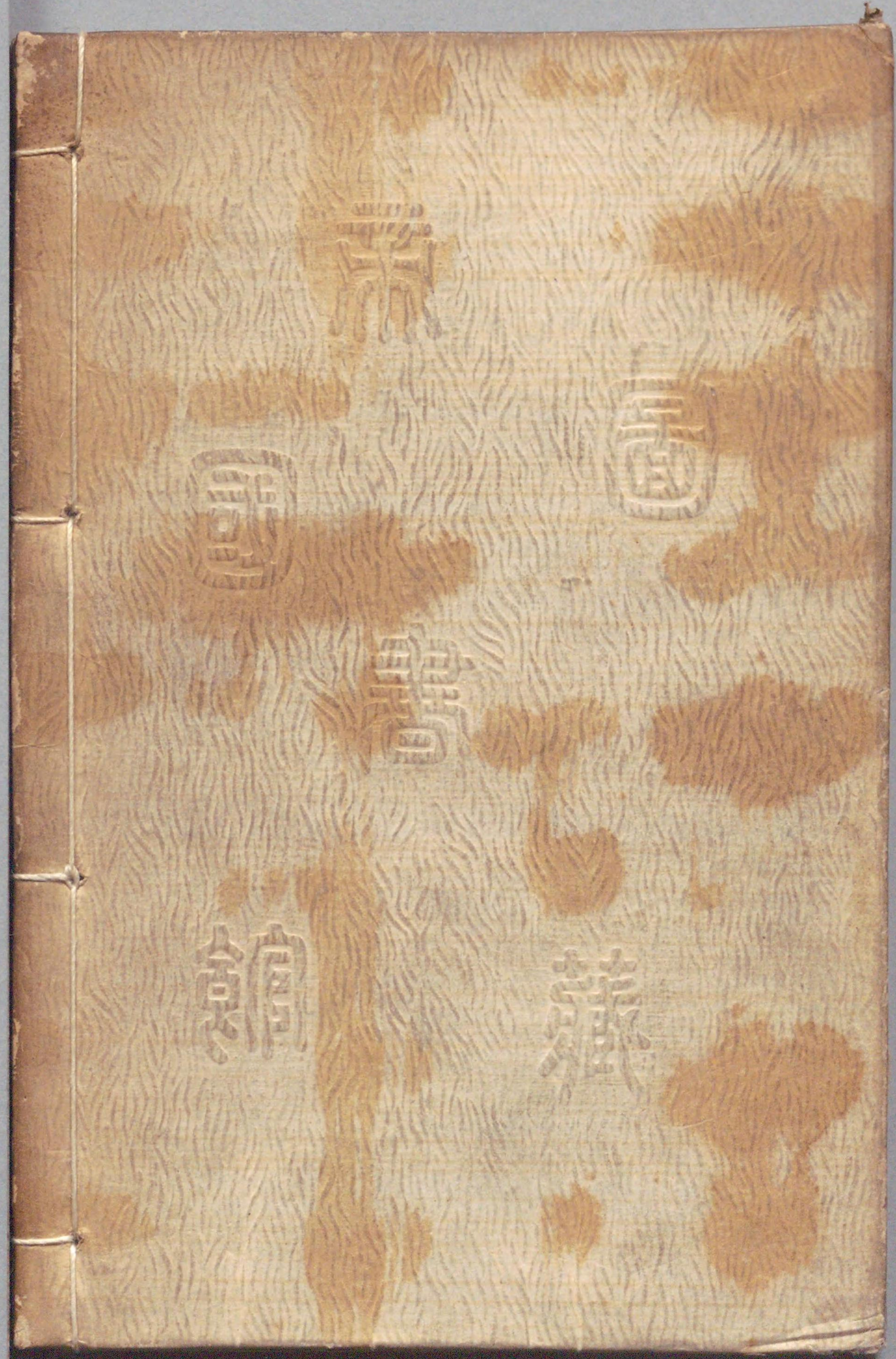
国立国会図書館 花筐 5編 208-700

ガラス使用





国立国会図書館 花筐 5編 208-700



ガラス使用

